

ロシア若手トーク

秋草俊一郎

「作家の写真を読む—
『ロシアータ』の著者ナボコフは、
いかに世界的作家になったか」

2018年5月15日（火）16：00－17：30

研究講義棟104教室

本講演は予約不要です。ご関心のある方はどなたでもお越しください。

主催：科研（基盤B）「ロシア・ウクライナ・ベラルーシの交錯
—東スラヴ文化圏の領域横断的研究」（代表・沼野恭子）

連絡先：巽研究室 TATSUMI@TUFS.AC.JP

1958年、中年男がローティーンの少女に惹かれるというセンセーショナルな内容の小説、『ロリータ』を刊行したロシア人ウラジーミル・ナボコフは、一躍時の人になりました。この突然あらわれたベストセラー作家に、メディアはむらがりましたが、その視線はかならずしも好意的なものだけとはかぎりませんでした。50年代終わりから60年代、70年代をつうじて、『ライフ』や『エスクァイア』、『ヴォーグ』といった雑誌を通じて流通した作家の写真をスライドでごらんいただきながら、作家が、いかに写真家やメディアと協同し、「文豪」や「セレブリティ」といったセルフイメージをつくっていったのかを検証したいと思います。

秋草俊一郎(日本大学大学院総合社会情報研究科・准教授):
比較文学、翻訳研究。著書に『アメリカのナボコフ—塗りかえられた自画像』(慶大出版会、2018年[近刊]);『ナボコフ 訳すのは「私」—自己翻訳がひらくテキスト』(東大出版会、2011年)。訳書にアプター『翻訳地帯—新しい人文学の批評パラダイムにむけて』(共訳)など。